令和５年度　徳島森林管理署の重点施策

～地域の林業成長産業化に向けた取組～

令 和 ５ 年 ４ 月
徳島森林管理署

1. 地域の安全･安心を守る山地防災力の強化

○ 台風、豪雨等の災害から地域の安全・安心を守る治山事業を６箇所で実施。
（Ｒ４年度補正１箇所、0.3億円とＲ５年度当初計画　５箇所、3.4億円）

○ 平成29年３月の三好市と徳島森林管理署の協定締結に続いて、平成31年３月18日に徳島県と四国森林管理局が、県と国による初めての「林野災害時等ドローン利活用協定」を締結。
この協定に基づき、台風・豪雨の災害に備え、徳島県と連携し、被害状況調査訓練やドローンを活用した山地災害調査、画像解析ソフトを使った迅速な復旧計画の作成等に取り組む。

■ 令和5年度　治山事業実施箇所図

■ ドローンによる被害状況調査(H 30年7月三好市外)

■ ドローンを用いた徳島県及び関係市町村と被害状況調査訓練
(R4年11月勝浦郡勝浦町)

■ 徳島県との林野災害時等ドローンの利活用協定
(H 31.3.18)

■ 麦生土(上)整備状況
R4年度治山コンクール受賞
(R3年施行)

2. 生産・造林複数作業契約によるトータルコストの削減

○　多くの森林が収穫期を迎える中で、保育間伐【活用型】造林（下刈）の生産・造林複数作業種組合せ（三好市東祖谷深渕山)を実施し、トータルコストの削減に取り組む。

■複数作業契約とは

活用型造材作業

活用型運材作業

下刈作業

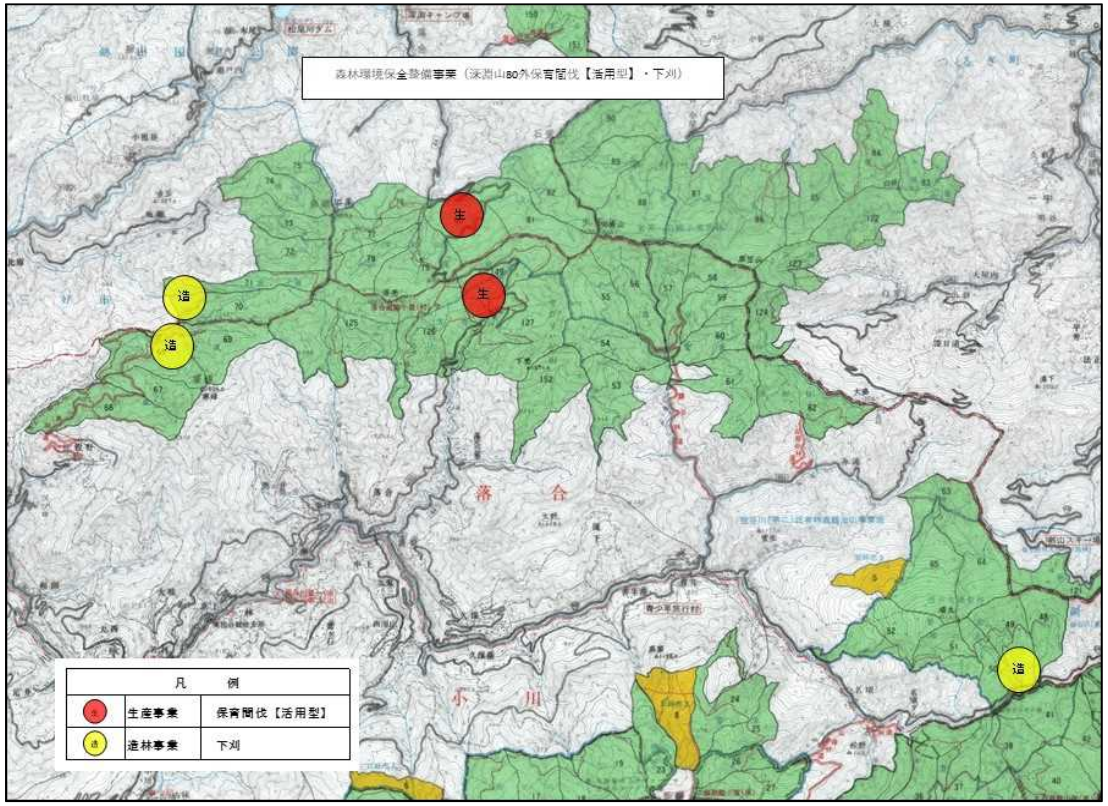
活用型伐倒

複数作業の組合せ

保育間伐活用型と下刈作業の複数作業の組合わせによるトータル コストの削減

＜保育間伐活用型と下刈作業複合契約＞

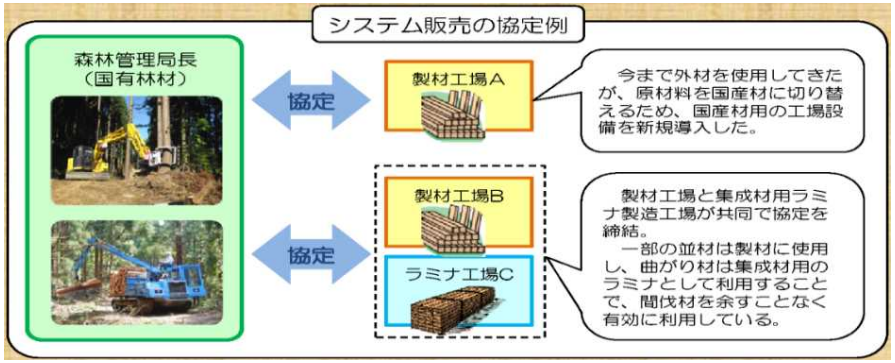
■令和5年度　複数作業契約導入地区



3. 国有林材2.46万㎥を安定供給

○ 立木販売の強化等により国有林材2.46万m3を安定供給。
　R5年度：24.6千m3(製品 6.2千m3、立木18.4千m3)
○ 立木販売を抜本強化　５年度：18.4千m3
　①年間の立木販売予定情報の公表。
　②立木販売と造林の混合契約の推進。
　③立木のシステム販売の推進。

■ 国有林材の安定供給システム販売の仕組み



※システム販売の対象は、製品（丸太）と立木。協定の相手方は、製材工場、木材加工業者、原木市場、素材生産業者等。
　立木のシステム販売は、複数年（3年以内）の協定、搬出期間は売買契約から原則3年以内。

■ 徳島森林管理署の国有林材の供給量

単位：千m3

種別	H31	R２	R３	R４	R５
供給量（製品換算）	4.5	6.1	5.8	9.7	24.6
製品販売	4.5	6.0	5.8	6.1	6.2
（内：システム販売）	4.4	5.8	5.6	5.9	6.2
立木販売	0.1	0.2	0.1	3.6	18.4

H31～R４年度は実績数量、R５年度は計画数量

木材生産現場
（三好市東祖谷塔の丸国有林）

現場で集積し公売
（塔の丸国有林）

4. 現地検討会等による民国連携と林業技術の普及

○ 市町村林務担当者、民有林関係者等を対象に、民有林と国有林が一体となった路網整備・相互利用、協調施業、協調販売の担い手確保対策等に向けた課題解決に取り組む。
○ 市町村林務担当者、民有林関係者等を対象に、新たな森林技術、低コスト林業等に関する「現地検討会」を開催し、得られた成果を民有林への普及に反映させていく。

■ 令和 5年度 現地検討会の開催計画

期 日	内 容	場 所
R5年 6月頃	第5回 災害時情報収集演習	徳島署管内国有林
R5年 11月頃	ICT活用による森林調査について	徳島署管内国有林

AI搭載ドローンによる
森林資源調査の現地検討会
森林技術（R4年11月）

ドローン飛行研修(初級)
森林技術（R4年10月）

ドローン飛行研修(応用編)
森林技術（R4年10月）

5. とくしま林業アカデミー、那賀高校森林クリエイト科、池田高校三好校への森林環境教育、高校・大学生へ人材育成の支援

○　平成30年３月の徳島県、徳島県森林づくり推進機構及び四国森林管理局の人材育成連携協定に基づき、とくしま林業アカデミーに対し、学生の実地研修、講師派遣等の支援を実施。

　具体的には、コンパス測量実習、ドローンの操作とその活用、一貫作業システムについて講義など実地研修を行う。

○　那賀高校森林クリエイト科の生徒に対する森林環境教育、那賀地域林業担い手対策協議会における担い手対策の支援に取り組む。

○　池田高校三好校環境資源科のドローンの操作と利用に関する出前講座。

○　各森林・林業関係の高校、大学生へのインターンシップに取り組む。

とくしま林業アカデミーでのコンパス測量実習
（R4年7月）

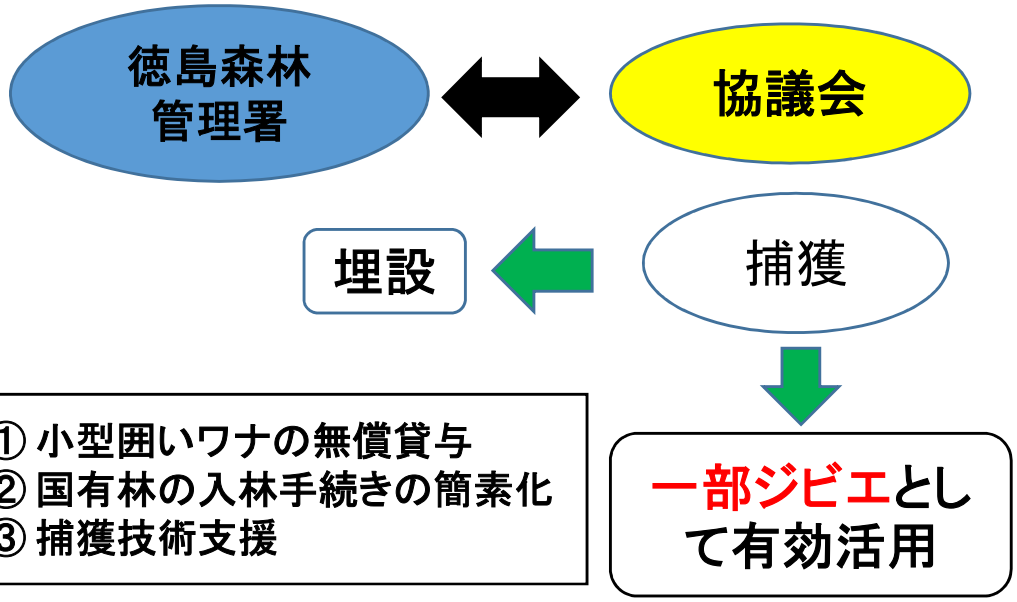
那賀高校森林クリエイト科への
インターンシップ
（ R4年10月）

池田高校三好校のドローン講座
（R4年10月）

6. 地域との協定締結によるシカ被害対策の推進

○ 徳島森林管理署の職員による捕獲事業の推進。（令和4年度は54頭捕獲）
また、請負での捕獲事業を行う。（令和4年度は17頭捕獲）
○ 平成29年より、南つるぎ地域活性化協議会※と締結した「シカ被害対策推進協定」に基づきシカを捕獲。（令和4年度は3頭捕獲）
○ ボランティア団体等と連携し、防鹿ネットの増設、既設ネットの保守・点検による植生保護の取組を実施し、効果的なシカ被害対策に取り組む。（令和4年度は2基設置）

■シカ被害対策推進協定



① 小型囲いワナの無償貸与
② 国有林の入林手続きの簡素化
③ 捕獲技術支援

※南つるぎ地域活性化協議会は、剣山南西地域の環境保全と地域の活性化を目的に山に関わる団体等をメンバーとするボランティア団体

職員によるシカ処理状況

小型囲いワナによる請負でのシカ捕獲

捕獲したシカの解体実習
（徳島文理大学生と）

ボランティア団体と防鹿ネットの設置

7.「祖谷のかずら橋シラクチカズラ資源確保プロジェクト」の推進

○　平成30年２月に徳島森林管理署、香川大学農学部、三好市が締結した「シラクチカズラ資源確保と活用推進連携協定」に基づき、三者が相互に連携し、地域の「木の文化」の象徴である祖谷のかずら橋、奥祖谷の二重かずら橋の架け替え資材であるシラクチカズラの資源確保とその果実の活用に向けた取組を展開する。

○　令和５年度は、①三好市国有林内の植栽地にシラクチカズラの苗木の植栽と令和元年植栽した保育作業（下刈等）と植生調査。 ②地元小・中学校生を対象とした「シラクチカズラセミナー」の開催。③今年度の祖谷のかずら橋架け替えの採取地の検討。

架け替え用に採取されたシラクチカズラ
（R3年1月）

祖谷のかずら橋のカズラ苗木植栽式
（R4年7月）

シラクチカズラの植生調査
（R4年8月小島67苗畑）

8．観光資源としての発信「日本の美しの森～お勧め国有林」

○ 外国人観光客が多く訪れる、祖谷のかずら橋の資材提供等の取組や国有林の紹介について英語版パンフレットを作成し、観光協会に配布。
○ 剣山自然休養林の観光資源としての活用を推進するため、関係機関、団体との連携を図り、観光資源としての利用に向けた各種活動に取り組む。

かずら橋の英語版パンフレット

剣山自然休養林全景

鎗戸シコクシラベ保護林看板
R3年度に看板を新調

剣山頂上のドローン画像

奥祖谷二重かずら橋

9. 国産材自給率50%に向けた森林環境教育の推進

○　令和７年度に木材自給率50%の目標達成を目指し、多くの国民に木材利用の重要性を理解して頂く活動として、身近な生活の中での木材利用を推進していくため次世代を担う子供たちを対象に、保護者や教育関係者のニーズを反映した森林環境教育プログラムによる森林環境教育に積極的に取り組む。(令和４年度は12回実施)

とくしま木づかいフェア（R4年10月）

徳島木のおもちゃ美術館（R4年12月）

昭和保育所（R4年11月）

丈六保育所（R4年12月）

八万東保育所（R5年1月）

みずほ保育園（R5年2月）

10. 徳島森林管理署の取組の積極的な情報発信

○　徳島森林管理署の各種取組・事業について、時期を逸することなく積極的な情報発信に取り組む。具体的には、四国森林管理局HPへの掲載、市町村の広報誌への情報発信に取り組む。
○　森林経営管理制度等に関わる情報提供の機会や各種会議を活用し、市町村をはじめとする関係機関・団体等を直接訪問するなど、情報提供を行うとともに、地域からの国有林に対するニーズを把握する。
○　市町村への指導・助言を行える技術者を養成する事業に向けて、講師派遣を通じた支援等に取り組む。

署内の受付で木質化とPR

伐採搬出・再造林の会議に参加　(R4年12月)

三好市市長室に訪問（R4年12月）